

関東良陵だより

東北大学関東良陵同窓会

平成二十三年関東連合会総会のご案内

この度の東日本大震災で被災された方々には、心より
お見舞い申し上げます。

このような時期ではありますが、平成二十三年度東北
大学良陵同窓会関東連合会総会は、例年通り下記の要領
で開催することに致しました。なにとぞ万障お繰り合
わ
せのうえ、ご出席賜りたくご案内申し上げます。

今回も、総会の前に「関東良陵アカデミア」(教職員会
を改称)を、当日午後二時より、同四時まで、同じ会場
にて開催いたします。次いで総会では、特別講演を聖路
加国際病院副院長細谷亮太先生(昭和四十七年卒)にお
願ひして「トータルケアの概念」(要旨は2面掲載)
と題した講演をしていただくこととしております。アフ
ターディナー・コンサートには、仙台ご出身の女流ピア
ニスト高橋礼恵さんにご出演をお願いしております。
奥様はじめご家族のご参加も、大いに歓迎致します。

東北大学良陵同窓会関東連合会会長

高橋俊雄

東北大学医学系研究科震災復興支援募金のお願ひ

この度の東日本大震災により、母校東北大学医学部も
甚大な被害を受けました。同窓会諸先生方のご支援を
お願いいたします。(詳細は本紙第三面に掲載)

総会プログラム

日時 平成二十三年六月十八日(土)

場所 市ヶ谷私学会館アルカディア四階

関東良陵アカデミア(教職員会を改称)開催

午後二時から

総会議事

午後四時半

特別講演 演題『トータルケアの概念』

講師・細谷亮太先生(昭和四十七年卒)

午後五時半

懇親会

午後六時頃より開会

アフターディナーコンサート

ピアノ・高橋礼恵さん(後述)

会費 会員一万円 ご家族五千円(一人)

出席申し込み 同封の郵便振替用紙に、総会出欠を

ご記入のうえ総会費及び会員の年会費三千円を

ご納入ください。また、東北大学医学部研究科

震災復興助成金のご協力いただける方は、この

振込用紙をお使いください。

*会費納入のお願い 総会にご欠席の方は、年会費三千

円のみをご納入くださいますようお願いいたします。

会費の納入率が低く、年間の赤字が出ております。

なお、八十歳以上の方で、会費免除をご希望の方は

事務局までお申し出ください。

総会特別講演予定

平成二十三年総会の特別講演要旨

「トータルケアの概念」

細谷亮太

(昭和四七年卒)

「トータルケア」という概念の生みの親は、ボストン小児病院にいた、ハーバード大学教授シドニー・ファバーである。小児がん治療バイオニアの一人で、薬拮抗剤を使用して、小児白血病を治療し、一九四八年の『New England Journal of Medicine』誌に発表。小児がんが治せるかもしれないと皆に希望を持たせた人物である。私の前任の聖路加病院小児科部長・西村昂三は、一九六〇年まで彼の下で、臨床トレーニングを受け当院へ就職。その年、「小児科臨床」誌に「米国に於ける、小児急性白血病治療の現況」を寄せたので、一部紹介する。



写真上は
細谷亮太先生

「家族に対し不治なることを伝え、症状経過の報告と、現在の治療法で生命をできる限り延長し、よりよき治療法発見への希望を与え、同時に患児の治療、福祉がつくされている安心感を与える両親がしつづけを失うと、精神面、素行面で問題が生じることがある。」

家族の経済的負担も大で、社会福祉司が相談援助に応じている」

一九七三年、世界初の小児がんの

教科書「小児悪性腫瘍学」で、恩師ストーは、「小児がんの治療は、考えうる治療法はすべて使用して、集学的に多職種の人々の協力の下で行われなければならない。これがファバーのトータルケアの概念である」と述べている。このコンセプトは、さらに進化し、参

集すべき専門家は増えた。診療から治療、心理的、社会的・経済的なサポート、長期フォローアップをすべてを包含し、家族も深くケアする

ようになった。

トータルケアに医療チームの充実は必須である。医師、看護師、OT、ソーシャルワーカー、病棟保育士、ECS、小児心理士、教師、宗教家、病棟薬剤師、検査技師、訓練士等、メンバーがお互いの立場を理解し、職種を尊重しながら、チームワークよく働いてこそ、トータルケアの望ましい形を追求できる。

*細谷亮太先生は、昭和二十三年生まれ、山形県のご出身で、昭和四十七年（1972年）東北大学医学部を卒業、聖路加病院小児科に勤務。1978年から米・テキサス大学MDアンダーソン病院癌研究所に勤務（二年間）、その後、帰国して聖路加病院に復職。

現在、聖路加病院副院長。小児科医療センター長。小児科を三十八年間担当。ご専門は「小児がん」著書多数あります。

アフターテイナー・コンサート

仙台ご出身の女流ピアニスト高橋礼恵（のりえ）さんをお迎えします。礼恵さんは、仙台市に誕生、桐朋学園大学卒。その後DAAD奨学生として、ベルリン芸術大学に学び、世界的な演奏家として活躍されています。

総会当日の演奏予定の曲目は左記のとおり

プログラム、

ベートーベン作曲 ピアノソナタ「月光」

リスト作曲 「愛の夢」

ショパン作曲 「スケルツォ第2番」

その他

写真上は、高橋礼恵さん



東北大学医学系研究 科震災復興・支援募金 のお願い

関東長陵同窓会

会長 高橋俊雄

今回の未曾有の東日本大震災で亡くなられた方々には、謹んでご冥福をお祈りするとともに被災された皆さまには、心からお見舞い申し上げます。

この中には、長陵同窓会会員とご家族も含まれているとこのことで、本心に心が痛みます。

東北大学医学系研究科長山本雅之先生からは、大学職員、学生は全員無事であったこと、教育、研究、病院設備、貴重な資料などは、開学依頼の甚大な被害を受けたこと、東北大病院は災害の中核病院として、重症被災者の診療、被災地への医師派遣など大震災の救援活動に全力で当たっていること、今後はこの大震災をのり越えて大学復興に向けて、全力を注ぐ等の報

告を頂きました。そして、その復興のため、東北大学医学系研究科震災復興助成金（東北大学医学部の受付窓口）を創設されたこのことでもあります。

本復興助成金は、壊滅的被害を受けた教育、研究、診療設備の復興並びにこの震災で親元から仕送りが困難となった学生の支援等に当てたいとのことであり

ます。関東長陵同窓会と致しましては、平成二十三年四月十四日役員会を開催し、母校東北大学医学部の一日も早い復興を願って本復興助成金の募金活動を行うことが満場一致で承認されました。つきましては、関東長陵同窓会員の皆様におかれましては、既に各種組織を通じて義援金に応じておられる方も多いかと存じますが、母校東北大学医学部の窮状に鑑み、一日も早い復興を願って左記の要領で、ご支援を賜りたく存じます。

記

- ① 目的 東日本大震災で被害を受けた東北大学医学研究科への復興支援
- ② 名称 東北大学医学研究

③ 科震災復興助成金 支援金の振込み方法

「関東長陵だより」に同封した郵便振込用紙を用いて「東北大学医学研究科震災助成金」の項に○印を付けて、

金額（一口・一万円、一口以上お願ひします）を近くの郵便局から振り込んで下さい。税制上の優遇処置が受けられますので、所得控除を希望する方は、所得控除の項に○印を付けて下さい。

④ 年会費振込み、総会出席者

関東長陵同窓会年会費（三千円）。六月十八日関東長陵同窓会総会年会費（一万円）を振り込まれる方は、それぞれの項に○印を付け、東北大学医学研究科震災復興助成金と合計金額を振り込んで下さい。

⑤ 領収書、所得控除書

東北大学医学研究科経理から、後日送られる予定です。

「関東長陵だより」並びに「関東長陵同窓会HP」への情報提供のお願い

今回の大震災で思わぬ被害を受けた皆さまに関東長陵同窓会は心よりのお見舞いをいたします。

そして母校・東北大学並びに被災地の皆さまの一日も早い復興を心からお祈りを申しあげます。

関東長陵だよりは、これまで会員の皆様にさまざまな情報を提供して参りました。

また、東北大学長陵同窓会関東連合会のホームページは、本部長同窓会のHPに先駆けて平成十七年に開設され、現在まで約一万件に及ぶ多くのアクセスがありました。

今回、内容を充実するため、会員各位の情報（教授就任、叙勲、新規開業、就職希望、移動など）を募集することに致しました。東北大学長陵同窓会関東連合会東京支部（四頁最後）まで情報をお寄せ下さい。

お便りをお待ちしております。

（関東長陵同窓会

幹事長 新田澄郎）

震災復興支援募金活動

東北学生震災復興支援団体
東京支部は、今回の災害の支援につき、左記に掲載（抜粋）募金活動のお願いを実行し、多大な成果を収めております。

震災復興支援募金のお願い

この東日本大震災では、私たち東北大学生の多くが仙台において被災しました。

その後の原子力発電所事故による放射線の影響や風評被害に苦しむ友人も居り、報道されることのない、被災地の生の声を耳にするたびに心が痛みます。

私たち東北学生震災復興団体 A4T (ALL FOR TOKU) は、仙台から地元避難してきた東北大学の学生が中心となり、東北地方の支援活動を行う団体です。A4Tは全国各地に支部を置いて活動を進めております。現在、青森県 秋田県、栃木県、東京都、神奈川県、大分県に支部があります。A4T東京支部は、都内における街頭募金活動を進めてきました。

新宿駅周辺で八日間（三月二十五日から四月一日）の募金活動を行い、五百十一万三千三十一円の義援金を皆さまからお預かりしました。A4Tでは、各支部では集めた義援金の全額を一括して日本赤十字社に寄付し、被災地復興に役立てて頂こうと考えております。

実際に活動してみようことは、被災地の復興のために協力してくださる方がこんなにもたくさんいるのだということですから街を通り過ぎていく人は見ず知らずの大学生に対して、千円札や一万円札を惜しみなくいれてください。さらには東北大学の校舎や、仙台の街並みの様子を気にかけてください。そうゆう時に、この活動のやりがいを感じます。今後、私たち東北大学の学生は順次仙台にもどります。被災地の皆様の声を発信するとともに、街頭募金でご支援くださった皆様の激励の声を被災地の方々にお届けいたします。有難うございました。（東京支部長 石田啓之 東北大学医学部医学科三年、支部長補佐 岩瀬遼 同三年）

巨大地震、津波、原発被害地の医療救護体験記

今回の大災害で右記三重苦の辛酸を舐めている福島県いわき地区に、医療救護に参加した。いわき市・四倉、久ノ浜地区は聞きしに勝る惨状で言葉もなかった。避難所には、家や家族を失った人々、原発事故で避難してきた人々等が、水も出ない寒い避難所に身を寄せ合って不安な日々を過ごしていた。

特に、原発のある双葉地方からの避難者は、家と肉親を失いながら、その捜索も出来ず、不安は極に達していた。

また、風評被害もひどく、いわき地区には、ガソリンや食料不足も深刻であった。

避難所を一日に五、六箇所廻り診療を行ったが、不眠、抑うつ気分など精神的にも不安な者が多かった。（会長 高橋俊雄）

今回の女医部会開催は中止となりました。総会で代行いたしますので、ご出席下さい。田中佐喜子



写真右は、被災地での診察風景

東北大学長陵同窓会
関東連合会東京支部
〒247-0072
神奈川県鎌倉市岡本
二・二一・一七〇四
TEL & FAX
〇四六七（四五）〇二八七